

投資の基礎講座 「量的緩和解除と金利」

CFP®認定者
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

日本銀行の量的緩和政策の解除時期を巡り債券・金利市場では様々な観測が飛び交っています。4月という説が有力ですが、早ければ3月8・9日の金融政策決定会合で、遅くとも6月までには量的緩和政策解除が行われる可能性が高まっています。

2001年3月19日の日銀金融政策決定会合で「わが国では、過去10年間にわたり、…日本銀行は、…歴史に例のない低金利政策を継続し、潤沢な資金供給を行ってきた。それにもかかわらず、日本経済は…再び経済情勢の悪化に見舞われるという困難な局面に立ち至った。…日本銀行は、通常では行われなような、思いきった金融緩和に踏み切ることが必要と判断し、量的緩和政策を決定しました。

量的緩和政策により日銀の当座預金残高は32.6兆円(2月末)になっています。銀行が多額の決済用資金を預けていることになり、急な資金の払い出しにも対応できるわけです。しかし、量的緩和が解除されると日銀の当座預金残高は最終的には5~6兆円程度になり、金融機関は日銀の当座預金で賄えない分は市場から調達する必要があります。量的緩和政策から短期金利調整の政策に舵を切ることになります。急に残高を減らすことになれば、金融機関は急いで資金を調達しようとしますから、短期金利が大幅に上昇してしまう可能性が出てきます。

金利の大幅な変化がないように、仮に量的緩和政策の解除が行われても、穏やかに残高を減らすような政策を続けていくことになりそうです。また、7月~9月ごろには公定歩合の引き上げの可能性も出てくると思います。

先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,192.95円	16,205.43円	15,663.34円	15,663.34円
TOPIX	1,656.82	1,660.42	1,612.96	1,612.96
東証1部単純平均	537.99円	537.99円	512.92円	512.92円
東証1部売買高	2,216,671千株	2,269,788千株	1,731,240千株	1,731,240千株
ニューヨークダウ平均	10,097.55ドル	11,053.53ドル	10,097.55ドル	11,021.59ドル
NASDAQ	2,307.18	2,311.11	2,281.39	2,302.60
10年国債利回り	1.600%	1.635%	1.585%	1.620%
債券先物中心限月	135.86円	136.01円	135.80円	136.01円
無担保コールO/N	0.001%	0.002%	0.001%	0.002%
円TIBOR 1ヶ月	0.09273%	0.09273%	0.09182%	0.09273%
円TIBOR 3ヶ月	0.11091%	0.11364%	0.11091%	0.11364%
ドル/円相場	116.18円	116.66円	115.83円	116.66円
ユーロ/円相場	137.75円	139.77円	137.75円	139.77円
1ユーロ=ドル	1.1856ドル	1.2023ドル	1.1848ドル	1.2023ドル
米国FFレート	4.5000%	4.5625%	4.5000%	4.5000%
米国10年国債利回り	4.59%	4.68%	4.54%	4.68%

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年3月6日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%
東和銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%
高崎信用金庫	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.05%
郵便局	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%

今週の経済指標など

今週は、8・9日の日銀金融政策決定会合のほか注目指標の発表が相次ぎます。経済指標は金融緩和解除、金利、為替、株式相場に様々な影響を与えます。

- 3月6日(月) 10 - 12月期法人企業統計
- 3月8日(水) 1月の景気動向指数、マネーサプライ、2月の景気ウォッチャー調査
- 3月10日(金) 2月の国内企業物価指数、1月の機械受注、米国 2月の雇用統計

今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、比較的堅調な始まりとなりましたが、金融緩和の早期解除観測の高まりや円高の進行を嫌気して週末に書け3日続落となりました。

今週の株式相場は、8日・9日の日銀金融政策決定会合を控え、様子見の動きで始まりそうです。日経平均株価が75日移動平均の水準まで低下したことで暫くは下値模索の展開が予想されます。一時的に15500円を割り込む場面もありそうですが、景気上昇基調に変化はなく、押し目買いが入るものと思われることから下値は限られそうです。

配当取りを狙い、電力株などの高配当銘柄には買いが続くものと思います。

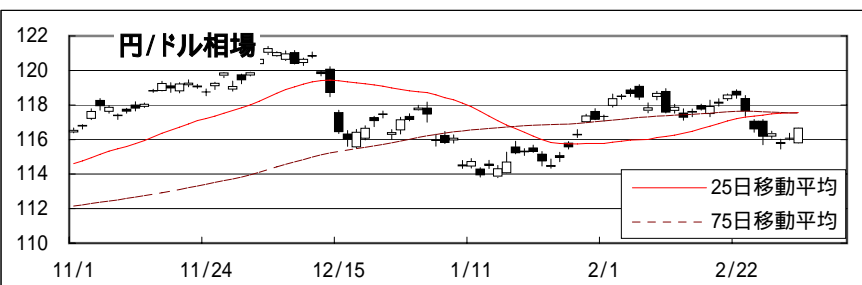
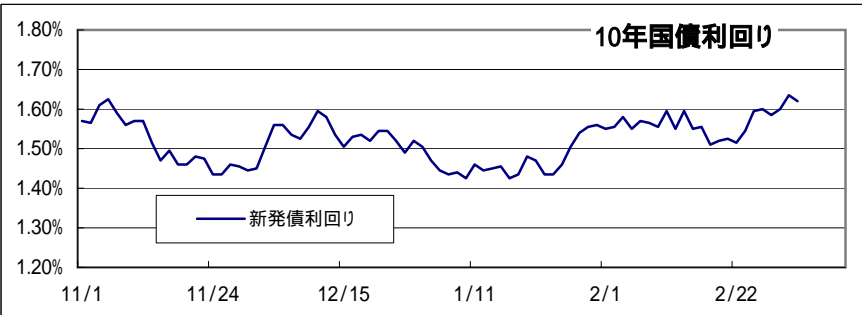
今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、金融緩和解除への警戒感から軟調な展開となりました。

今週の債券相場は、金融政策決定会合を睨みながら神経質な動きとなりそうです。金融緩和解除が行われれば10年国債利回りで1.65%を超えることもありそうですが、遅くとも4月には行われることから弱含みの展開が続くものと思います。

先週の為替相場は、日米金利差の縮小を懸念し円が買われる展開となりました。

今週の円相場は、先週115円台まで買われたものの、更に買い進む動きが見られなかったことから1ドル=115円前半が目先の高値となり、上値も117円程度で抑えられ比較的狭いレンジでの推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものです。その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイド ファイナンシャル プランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。